

2012年度大学入試センター試験概況分析

河合塾
2012/2/3

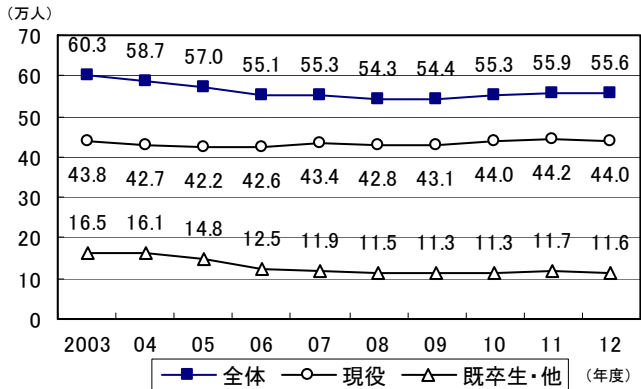
このほど大学入試センターから2012年度大学入試センター試験（以下、センター試験）の実施結果概要が発表され、受験者数、科目別平均点などが判明した。以下、今年度のセンター試験の概況を振り返る。

■志願者数は微減

今年のセンター試験は1月14・15日の2日間にわたり、全国709の試験会場で実施された。志願者数は昨年より3,447人減の555,537人（前年比99.4%）であった【グラフ1】。

内訳をみると、現役生が439,713人（前年より2,708人減）、高校既卒者等が115,824人（同739人減）で、いずれも前年から減少している。ただし、率にするといずれも前年比99.4%であり、大きな変化ではない。

【グラフ1】センター試験 志願者数推移



■受験者数も減少、ただし受験率は上昇

再試験受験者は対象者の1割以下に留まる

次に受験状況を見てみよう。【表2】はセンター試験の受験者数の推移である。今年の受験者数は、昨年から1,482人減の526,311人となった。一方、受験率（受験者数/志願者数）は94.7%と昨年から0.3ポイント上昇した。これは、センター試験初年度の1990年に次ぐ高率である。今年の試験日は多くの会場で天候に恵まれたことに加え、近年は国立大志向が強まっていることも影響しているよう。

なお、今年のセンター試験は運営上のトラブルが多発し、3千8百人を超える再試験対象者を出した。しかし、実際に再試験を受験したのは265人に留まった。再試験受験者が少なかったのは、私立大入試が直近に迫っており、不本意ながらも受験を辞退した受験生が多かったためと見られる。

【表2】センター試験 受験者数推移

| 年度 | 受験者数 | | | | 受験率 |
|--------|---------|---------|-------|-------|-------|
| | 総数 | 本試験のみ | 追試験のみ | 本+追+再 | |
| 2003年度 | 555,849 | 555,474 | 239 | 136 | 92.2% |
| 04年度 | 540,446 | 540,092 | 232 | 122 | 92.0% |
| 05年度 | 524,603 | 524,393 | 101 | 109 | 92.0% |
| 06年度 | 506,459 | 506,241 | 125 | 93 | 91.9% |
| 07年度 | 511,272 | 511,105 | 77 | 90 | 92.4% |
| 08年度 | 504,387 | 504,136 | 65 | 186 | 92.8% |
| 09年度 | 507,621 | 507,345 | 125 | 151 | 93.3% |
| 10年度 | 520,600 | 519,707 | 453 | 440 | 94.1% |
| 11年度 | 527,793 | 527,405 | 204 | 184 | 94.4% |
| 12年度 | 526,311 | 525,838 | 129 | 344 | 94.7% |

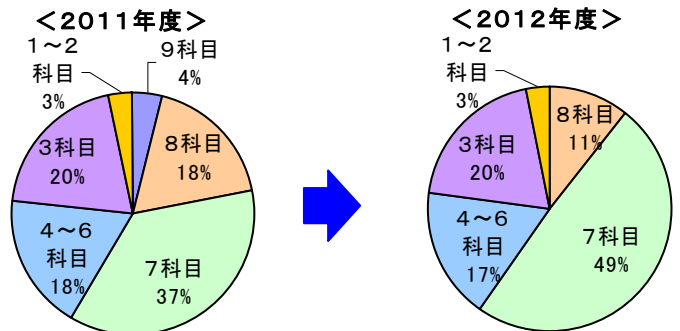
※大学入試センター資料より
※受験率は志願者数に対する割合

■8科目受験者が減少、7科目受験に集中

【グラフ3】は、受験科目数別の受験者の割合を昨今で比較したものである。試験方法の変更により、理科の最大受験科目数が3科目から2科目に減ったため、9科目受験者はいなくなっている。このほか目につくのが、8科目受験者の減少と、7科目受験者の増加である。

8科目受験者の減少は、「文系生の理科2科目受験」「理系生の地歴・公民2科目受験」が減ったことを意味する。国立大を中心とした、理科、地歴公民の第1解答科目成績利用導入のため、保険のために余分な科目を受験するメリットがなくなったためであろう。なお、7科目受験者の数は8・9科目受験者の減少数以上に増加しており、ここにも国立大志向の堅調さが表れている。

【グラフ3】センター試験 受験科目数別受験者数



■平均点 上昇科目が目立つ

【表4】は大学入試センターが公表した各科目の平均点と受験者数である。

平均点を見ると、主要教科である数学Ⅰ・Aで+4点、国語で+7点となったほか、物理Ⅰ、化学Ⅰ、日本史Bなどで平均点が上昇した。なお、数学Ⅱ・Bでは平均点は51点に留まった。他の主要科目と比較しても低く、今年も受験生泣かせの科目となった。

理科、地歴、公民の各教科では、公民で科目間平均点に若干の開きはあるものの、理科の主要科目と地歴Bでは平均点格差は小幅に収まった。なお、新科目「倫理、政治・経済（以降、倫政）」の平均点は67点で地歴・公民の中では、倫理、日本史Bに次いで高くなった。

受験者数の変化を見ると、理科総合A、現代社会、倫理、政治・経済で受験者が大きく減少している。

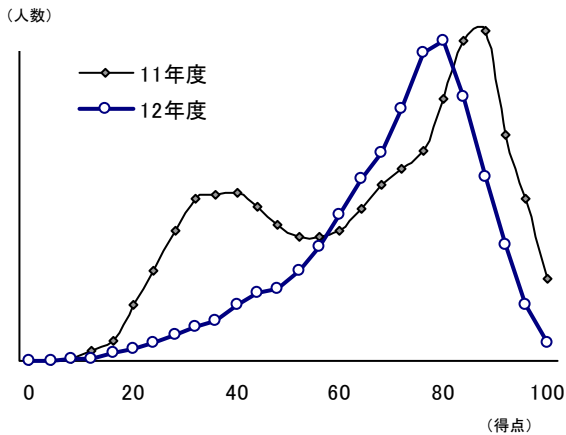
理科総合Aの減少は、前述したように、文系生の理科2科目受験が減少したためであろう。

【表4】センター試験 教科・科目別平均点・受験者数(本試験)

| 教科・科目名 | | 平均点 | | | 受験者数 | | |
|--------|----------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|
| | | 11年度 | 12年度 | 差 | 11年度 | 12年度 | 差 |
| 外国語 | 英語 | 122.78 | 124.15 | +1.37 | 519,538 | 519,867 | 329 |
| | リスニングテスト | 25.17 | 24.55 | -0.62 | 513,817 | 514,748 | 931 |
| 数学① | 数学Ⅰ | 44.14 | 40.18 | -3.96 | 8,614 | 7,186 | -1,428 |
| | 数学Ⅰ・A | 65.95 | 69.97 | +4.02 | 377,714 | 384,818 | 7,104 |
| 数学② | 数学Ⅱ | 31.73 | 26.03 | -5.70 | 7,185 | 6,917 | -268 |
| | 数学Ⅱ・B | 52.46 | 51.16 | -1.30 | 340,620 | 349,438 | 8,818 |
| 国語 | | 111.29 | 117.95 | +6.66 | 505,214 | 502,525 | -2,689 |
| 理科 | 理科総合A | 55.63 | 67.92 | +12.29 | 37,109 | 15,270 | -21,839 |
| | 理科総合B | 54.58 | 60.36 | +5.78 | 20,160 | 20,365 | 205 |
| | 物理Ⅰ | 64.08 | 68.03 | +3.95 | 152,627 | 152,853 | 226 |
| | 化学Ⅰ | 56.57 | 65.13 | +8.56 | 213,757 | 223,669 | 9,912 |
| | 生物Ⅰ | 63.36 | 64.00 | +0.64 | 190,693 | 189,214 | -1,479 |
| | 地学Ⅰ | 64.30 | 69.48 | +5.18 | 25,231 | 18,347 | -6,884 |
| 地歴 | 世界史A | 48.42 | 43.62 | -4.80 | 2,092 | 1,701 | -391 |
| | 世界史B | 61.46 | 60.93 | -0.53 | 88,303 | 91,139 | 2,836 |
| | 日本史A | 52.01 | 48.74 | -3.27 | 4,622 | 3,302 | -1,320 |
| | 日本史B | 64.11 | 67.92 | +3.81 | 152,970 | 157,372 | 4,402 |
| | 地理A | 52.58 | 47.42 | -5.16 | 5,341 | 2,695 | -2,646 |
| | 地理B | 66.40 | 62.16 | -4.24 | 113,769 | 132,528 | 18,759 |
| 公民 | 現代社会 | 61.76 | 52.10 | -9.66 | 177,843 | 105,570 | -72,273 |
| | 倫理 | 69.42 | 69.01 | -0.41 | 58,278 | 35,537 | -22,741 |
| | 政治・経済 | 58.97 | 57.99 | -0.98 | 88,758 | 57,224 | -31,534 |
| | 倫理・政治・経済 | | 67.14 | | | 49,601 | |

※大学入試センター資料より

【グラフ5】センター・リサーチにおける地学Ⅰ受験者の成績分布



理科の中で理科総合Aの次に減少数が大きいのが地学Ⅰである。この科目は受験者層にも変化が見られる。

【グラフ5】は河合塾が実施したセンター試験自己採点集計「センター・リサーチ」参加者の地学Ⅰの成績を昨今で比較したものである。地学ではこれまで、2011年度のグラフのように山が2つ出来るのが特徴であった。これは、保険として地学Ⅰを受験している層がいたためと考えている。しかし、試験実施方法の変更に伴い、今年はこの層が抜け、ひとつの山になった。地学Ⅰでは高得点者が減少しているものの、平均点は上昇している。

公民の既存科目はいずれも減少数が大きくなった。これは理系生の2科目受験が減少したこともさることながら、新科目「倫政」の導入とともに、地歴・公民の同時間帯実施の影響が大きい。

■地歴公民の科目別受験者数は大きく変わる

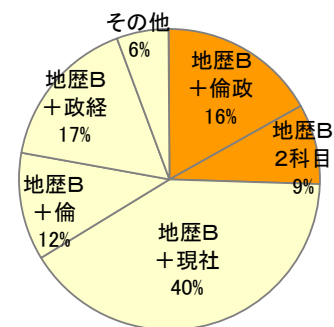
今年のセンター試験の変更の目玉は、新科目「倫政」の導入と、地歴・公民の同時間帯実施であった。

この変更で地歴2科目の受験が可能となったとともに、国立難関大を中心に、地歴・公民は4単位科目を指定する大学が出たことから、各科目の受験者数に大きな変化が生じた。

【グラフ6】は今年の地歴・公民2科目受験者の科目の組合せの割合を示したものである。4単位科目のみの組合せが一段濃い色になっている。2科目受験者のうち、この4単位科目のみの組合せで受験した者は、地歴B+倫政が16%、地歴B2科目が9%で、4人に1人という結果になった。残りのうち、大半は地歴Bと公民2単位科目の組合せである。多くの国公立大およびセンター利用私立大では、4単位科目に限定していないこともあり、受験生も従来どおりの科目選

【グラフ6】2012年度センター試験

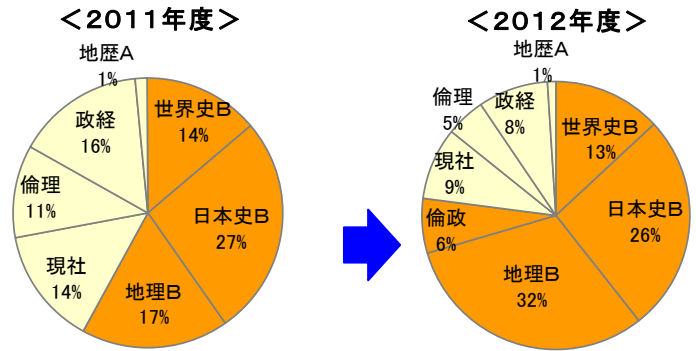
地歴・公民2科目受験者の科目の組合せ



択で受験してきた者が多かったことがわかる。
一方、地歴・公民を1科目のみ受験した受験生の選択科目には大きな変化が見られる。

【グラフ7】は、地歴・公民1科目受験者の受験科目の変化を見たものである。現代社会、倫理、政経の受験者が減少し、地理Bの受験者が大きく増えている。国公立大の医学科などで、4単位科目に限定した大学が多かったことから、理系受験生で従来からの公民科目ではなく、地理Bを選択した者が増加したものと考えられる。
なお、新科目「倫政」の選択者は全体の6%であった。

【グラフ7】地歴・公民1科目受験者の受験科目の変化



■総合型平均点 2年連続のアップ

【グラフ8】は、河合塾が推定するセンター試験の総合型の平均点推移である。

7科目型の平均点は、文系7科目型(900点満点)が572点(+10点)、理系7科目型(900点満点)が586点(+18点)と文理ともに上昇した。いずれも2年連続の平均点アップである。

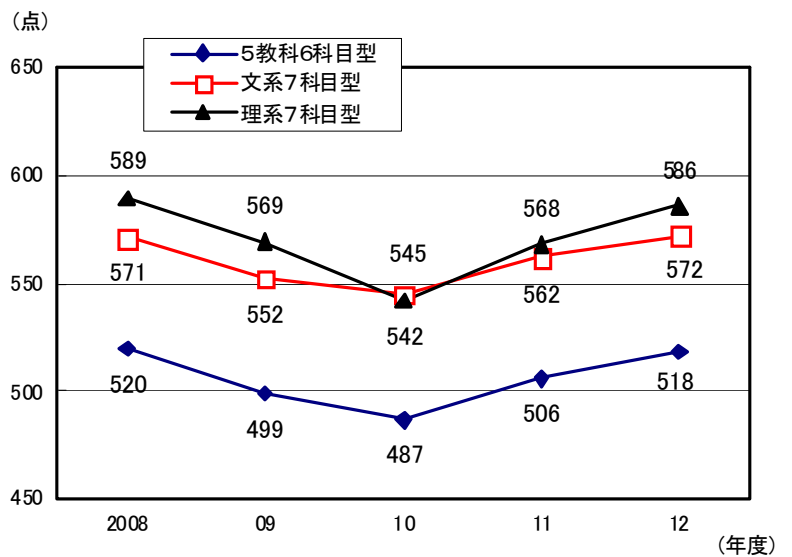
特に理系は、物理I、化学Iをはじめとする理科の主要科目の平均点がいずれも上昇したことから、文系以上の伸びとなった。

【グラフ9】は、「センター・リサーチ」における7科目総合型受験者の成績分布である。平均点上昇に伴い、文系・理系ともグラフは昨年より右側(高得点側)にシフトしている。

さらに、理系のグラフでは、理系受験生の増加により、グラフの山が大きくなっている。今年のセンター・リサーチの参加者数は、文系生が約3千人減少した一方で、理系生は約8千人増と大幅に増加した。この理系生の増加が、今春入試の特徴のひとつである文低理高を生み出している。

理系では、とくに得点640点以上の層が厚くなっており、この難易度帯の理系学部では厳しい入試となることが予想される。

【グラフ8】センター試験 総合型平均点推移



※総合型平均点は河合塾推定
文系7科目型: 英・数(2)・国・理(1)・地公(2)(900点満点)
理系7科目型: 英・数(2)・国・理(2)・地公(1)(900点満点)
5教科6科目型: 英・数(2)・国・理(1)・地公(1)(7科目型生を含む)(800点満点)
英語は筆記+リスニングの250点を200点に換算して集計

【グラフ9】センター・リサーチにおける7科目総合型受験者の成績分布

